

2020年(令和2年)4月18日(土曜日)

## エゾヤマザクラ今年も花

松阪の武四郎記念館周辺

松阪出身の幕末期の探検家で北海道の名付け親、松浦武四郎を顕彰する松阪市の武四郎記念館近くの広場や周辺で、北海道の野生種であるエゾヤマザクラが淡紅色の花を付けた。記念館友の会が北海道から苗木を取り寄せて育てており、ゆかりの地で今年も花が開いた。

エゾヤマザクラはヤマザクラと比べて花や葉が大き



淡紅色の一重の花を付けたエゾヤマザクラ＝松阪市小野江町で

い。オオヤマザクラとも呼ばれる。武四郎は釧路地方

苗木は二〇〇八―一〇年

の宿に泊まった夜、十三夜の月と、庭で満開のエゾヤマザクラ、ちりちりと降る雪を見て異郷の趣を感じ、歌を詠んでいる。

に植えられ、現在、十一本が育っている。一二年に初めて開花した。気候や土壌が異なる地で友の会が施肥、水やり、消毒と苦心して世話しており、今年は三本それぞれ五十個ほどの花を咲かせた。残りの木もちらほらと花を付けている。花は今月末まで見ることができるといふ。

友の会の飯田秀会長(セ)は「十一本が全て満開に花を咲かせるよう期待して世話をしている。いずれは松阪の名所にしたい」と話している。

(西村孝規)



# 友の会が育てた「エソヤマザクラ」

○撮影日：令和2年4月24日

○経過：4月6日に開花

武四郎記念館裏広場防災  
倉庫付近中央の桜が開花

○中央の桜が散った後、他の桜  
に花が咲く。



此の桜は防災倉庫裏の桜で満開  
○学童保育前から、移植した桜が  
5個花が咲く。  
○学童保育前の2本も40個ほど  
花が咲く。

○4月15日の夕刊三重  
と18日には中日新聞に  
カラーで掲載されました。





# 「松浦武四郎記念館友の会」展 “ほっと”ギャラリー

令和2年6月に展示

展示時期：6月1日～末まで

会場：三雲ほっとギャラリー

\*毎年恒例の活動展示で地元PR

\*地元の偉人である松浦武四郎を唯一  
顕彰するボランティア団体である  
「松浦武四郎記念館友の会」の活動展示。



## 大杉谷へ武四郎看板



## 武四郎歌碑の拓本 記念館所蔵しか無い唯一の和歌



## 《松阪ガイドボランティア友の会との交流会》

時期：令和2年7月22日（水）

9時30分～11時20分

会場：松阪市第一公民館2階

\* 3密を避ける為に検温・消毒・  
人との間隔を開け扉を開放する。

（参加者）

- ・ 松浦武四郎記念館友の会  
多賀館長（顧問）含め10名
- ・ 松阪ガイドボランティア友の会  
三好三重子会長含め7名

\* 司会：田中副会長

初めに飯田会長が交流会の経緯と  
挨拶を述べる。



松阪ガイドボランティア友の会を  
代表して、三好会長が熱のこもった  
挨拶をされた後、自己紹介をして  
から意見交換に入る。

お互いの概要と活動内容を記載  
した資料を配布して、活発な意見  
交換があり、有意義な交流会で  
あった事とその内容を今後の盾に  
して生かしていきたい。



# 9 月 度： 武 四 郎 講 座 は 友 の 会 主 催 で 開 催

時期：令和2年9月13日（日）

10時～11時20分

場所：嬉野図書館2階

講師：石水博物館学芸員

講師 桐田貴史様

演題：川喜田石水と松浦武四郎

参加者：45名（内会員外9名）

○最初に飯田会長が挨拶の中で、石水博物館学芸員に依頼した経緯などについて話す。



講師の桐田学芸員から、石水に宛てた武四郎の手紙を読み解きながら、「二人の交流のはじまり」「互いに何を期待したか」上記の2件などについて熱弁。

講座前日に中日新聞で、武四郎講座の概要を掲載された関係で、多くの方々が、演題「川喜田石水と松浦武四郎」に興味を持たれた方が会場に集まり、講師の話に耳を傾け、解りやすく話されました。



- ・参加者 21 名で 9 時出発 (3 密厳守)
  - バス定員 33 名のところ 16 名乗車
  - 役員はバスの後を自動車で
- (コース)

武四郎記念館→粥見の道標→辻や新七跡地→田中屋資料館→美滝会館(昼食)→舟戸の長野屋(旅籠)跡地→五輪塔→能化庵跡→両部曼荼羅→水屋神社→飯高道の駅(買い物)→武四郎記念館

武四郎記念館元館長の高瀬様が  
粥見神社前の周辺と武四郎  
との関わりについて説明 ⇒



明治 13 年に武四郎が泊まった  
長野屋(旅籠)跡地で、末裔の  
永野様から、長野屋の看板の説明。

看板の片面は、「ながのや」と  
書いてあるが、裏側は漢字で  
永埜屋と書かれている。

長野屋(旅籠)の玄関が在った場所  
で、長野屋の末裔である永野様と看板  
を中心に記念撮影。



## 《研修バスツアーで和歌山街道を舟戸へ》NO. 2

長野屋の末裔である永野様が「ながのや」と書かれた看板を持ち上げながら、説明を受ける。看板片方の面は、漢字で「永埜屋」と書かれている。



\* 看板の大きさは、縦 90 cm、横 32 cm である。「永埜屋」と書いてあるが、武四郎の紀行文には、「長野屋」と記されている。



《五輪塔》

大化の改新（645）で大極殿に於いて天智天皇と藤原鎌足に暗殺された蘇我入鹿を祀ったものと云われている。上部から空、風、火、水、地を表す梵字が各四面に見られる。

# 《研修バスツアーで田中屋資料館見学》 NO. 3

9月26日(土)武四郎が宿泊した「長野屋」跡地へ行く前に田中屋資料館を見学。

福井元教員の方が案内説明。此の建物は、14代田中彦左衛門が明治29年～30年に整備。

建物は、総ヒノキ造りで現在も一寸の狂いもない状態。



脇本陣跡の他に、「有徳館」と「有徳笑館」が建っており、昔の道具などが展示してある。

田中屋資料館の館長から、説明を受ける「友の会」会員たち。





# 武四郎が宿泊した飯南・飯高へのバスツアーを中心にパネル展示 NO. 1

展示場所：松浦武四郎誕生地の母屋  
 展示期間：11月1日～29日  
 バスツアーの時期：9月6日（土）  
 参加者：友の会会員 21名  
 バス：社協バス使用（定員の半分）  
 工程：粥見の道標→粥見の辻や伸七  
 →田中屋資料館→三滝会館（昼食）  
 →舟戸の長野屋（旅籠）→水屋  
 神社参拝と大楠見学。



武四郎が泊まった舟戸の長野屋の  
 末裔が、当時の看板を持って説明



武四郎が、大峰奥掛け目的に  
 奈良へ向かう途中、和歌山街道  
 を通っており、脇本陣跡（田中  
 屋資料館）も見学。

今回、武四郎の足跡を訪ねた  
 コースと場所を分かり易く描い  
 た地図を展示。

令和3年1月末に、拓本体験  
 会を開催するので、武四郎が詠  
 んだ和歌の拓本や友の会が建立  
 した歌碑の拓本もパネル展示を  
 して、皆さんに拓本への関心を  
 もって頂く良いチャンスと判断。



武四郎とエゾヤマザクラとの出会いを武四郎が書いた久摺日誌に描かれた絵と和歌をパネルで紹介。

\*エゾヤマザクラは、友の会が設立から、育成管理をしている桜で、現在11本に花見が付き毎年、美しい花を咲かせている。



今年度4月からの活動展示から、三雲ほっとギャラリーでの友の会活動展示や松阪ガイドボランティアとの交流会の様子を撮った写真展示・友の会主催での石水博物館学芸員の武四郎講座などのパネル展示。

友の会の過去5年間の活動を5冊に纏めたファイルと「松浦武四郎記念館友の会のあゆみ」を多くの皆様方に参照して頂くためにケースに入れて展示する。



## 友の会主催の拓本体験会

開催日：令和3年1月30日（土）

場所：松浦武四郎記念館会議室

参加者：友の会会員 15名

○四五百森拓本会の会員6名から指導を受けながら拓本体験。

西村欣也代表から、拓本について詳細な説明と拓本手順についてお話があった。



西村代表の指示の元に拓本作業に入り、拓本会の会員からのアドバイスもあり、楽しんで体験が出来た。

※受講者は、同じ方向を向いて、検温・消毒・マスク着用を実施。

出来上がった作品は、拓本会の方で裏打ちをして頂くのに、10日ほど掛かり、3月から武四郎誕生地に於いて出来上がった作品の拓本展示を予定。

